

平成26年度 共同生活ホーム あすなる荘

1、事業概要

事業所名	共同生活ホーム あすなる荘	
サービス種類	介護サービス包括型共同生活援助	
定員	28名	
人員	基準	配置
	管理者1名(兼務可) サービス管理責任者1名 世話人常勤換算数6名以上	管理者1名(兼務) サービス管理責任者1名(常勤) 世話人11名(常勤7名・非常勤4名) ※世話人常勤換算数7.8名

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	28	28	28	27	27	28	28	27	27	27	27	27	329
新規利用者数						1				1		1	3
退所者数				1				1		1		1	4
入院者数	1	1	1		1	2	1					1	8
月平均利用率	96%	96%	96%	96%	92.8%	92.8%	96%	96%	96%	96%	96%	92.8%	95.2%

※入院中は空室としてカウントしています。

3、事業実績の評価

(1) ご利用者が持たれている問題解決能力を引出し、共に歩んでいく。

職員が施設管理から自己管理の視点に気付き、サービス内容について、立案、実施することが概ねできるようになり、評価や変更は担当職員で行うのではなく、グループで協議し行うことができるようになってきた。

1) 事例検討の定例化

ア、株式会社縁との委託契約等により、事例検討を1年間に29回行った。

また、事例検討後にその内容を個別支援計画(個別支援記録)に反映した。

2) 個別支援計画の充実

ア、遅延なく28名のご利用者には適時モニタリング、修正、変更を行った。

しかし、他の関係機関(精神科、相談支援事業所など)に出席を依頼し個別支援会議を開催することが出来なかった。平成27年度から相談支援事業所が障がい福祉部となるため、相談、連携を図り関係機関の調整、招集を協力し行って行く。

イ、個別支援目標に沿ったサービス提供について、担当者だけでなく全職員が同じサービス提供ができるようになってきた。今後も支援目標に沿った一貫したサービスが提供できるように、グループリーダーを中心に振り返りを行っていく。

(2)ご利用者様の特性、症状、状態を把握し、社会参加を促す。

内部研修では個人の目標に沿った研修に参加できた。

研修やリーダー制の導入により、学習意欲や仕事に対する姿勢など変化がみられた。

1)個人目標カードに沿って内部、外部研修に参加する。

ア、教育委員が中心となり、研修案内を行い、管理職が参加できるように業務調整を行った。その結果、業務都合以外では目標に沿った研修に参加することができた。

中堅職員4名(18研修中、平均9.5研修参加)

イ、障がい福祉部で障がい特性など独自で6回/年研修会を行った。

ウ、外部研修には、安全衛生2名、精神障がい者退院促進地域支援について2名参加。

2)分掌及び責任者

ア、5月に業務分掌表を作成し担当者を決定した。

イ、10月から当日のリーダー制を設け、中堅職員が日替わりでリーダー業務を行うこととした。

(3)入所施設の支援状況及び空室状況等を関係機関に宣伝、周知する。

1)宣伝、周知

ア、4月10月に近郊の医療機関(大貞病院、豊前病院、大川病院、行橋記念病院、行橋厚生病院)、行政(中津市、吉富町、豊前市、築上町、行橋市)、相談支援事業所(豊前市:ハイジ、すおう、中津市:エマオ、ゴーン)挨拶回りを行った。

また、現ご利用者の外来受診に同行し、担当主治医、psw(精神保健福祉士)と関係構築に心がけた。

イ、毎月初めに近郊の医療機関に空室状況を書面にて報告を行った。

ウ、ホームページの更新はできなかった。平成27年度は新たなホームページ掲載となり、更新が容易になる。担当者を選任し2ヵ月に1回程度更新を行っていく予定である。

(4)年間活動実績

月	活動内容	小グループ活動
4月	花見(合同54名) 家族交流会(合同18名)	
5月		ボーリング大会(16名) 大掃除・茶話会(30名)
6月	防火訓練(合同24名)	
7月		七夕書道展(18名)
9月	野球観戦(合同11名)	
10月		コスモス園散策(14名)
11月	防火訓練(合同22名) 家族交流会(合同14名)	
12月	クリスマス会(24名) 餅つき(合同93名)	運動G散歩(3名)
1月	初詣(14名) 調理実習(30名)	
2月		ボーリング大会(8名)
3月	直方イオン(10名)	

※合同は、あすなる荘、ひだまり荘、就労みらいで開催

その他活動は、すべてひだまり荘と合同で開催

平成26年度 障がい者就労支援施設みらい

1、事業概要

事業所名	障がい者就労支援施設みらい	
サービス種類	就労継続支援B型	
定員	40名	
人 員	基準	配置
	①管理者1名(兼務可) ②サービス管理責任者1名 ③職業指導員 ④生活支援員 ※③④合わせて常勤換算数5.4人以上	①管理者1名(兼務) ②サービス管理責任者1名(常勤) ③職業指導員 常勤3名、非常勤8名 ④生活支援員 常勤4名、非常勤2名 ⑤目標工賃達成指導員3名 ※③④常勤換算数 11.5名

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	61	62	56	55	56	54	54	54	55	55	53	53	668
新規登録者数	2	2	0	0	1	1	0	0	1	1	0	2	10
退所者数	0	1	6	1	0	3	0	0	0	1	2	2	16
月平均利用者数	43.2	42.7	43.6	42.3	41.8	41.3	39.7	39.5	40.5	40	41.8	42.5	41.6

3、事業実績の評価

(1) ご利用者を中心とした質の高いサービスの提供

各種研修や入所施設職員との情報共有により、「ご利用者を中心」の視点やエンパワメントの視点をもって業務に望む(「できるためにどう支援していくか?」「相手を認める」)姿がみられるようになった。

しかし、個別支援計画に沿った支援や記録について実施することができなかった。

1) 担当制を導入する。

ア、独居者、高齢者を中心に、緊急時連絡体制の整備を担当制で行った。

27年度は、全ご利用者に担当制を設け、個別支援計画に反映させる。

2) ご利用者を中心とした作業方法・考え方の見直し

ア、株式会社縁の研修及び入所職員との情報共有を行い、エンパワメントの視点を養い作業提供場面での工夫や相手を認める発言が見られるようになった。結果、ご利用者の能力が段階的に向上した。

3) ご利用者のリーダー制の活用と育成

ア、6月にご利用者のリーダー対象者を面談し、リーダーの役割や心構えについて教育を行った。リーダー会議も毎月行うように予定していたが、作業が優先になり8月以降は実施できなかった。

イ、終礼ミーティングで、各リーダー対象者から本日の作業遂行状況の報告を行うように

した。そのことで、リーダーとしての意識が芽生え、予定作業量も考え作業を行う意識付けができた。

4)個別支援計画の充実

ア、個別支援計画の作成前後に職員間で情報共有を行なえず、現状に沿った支援計画が作成できなかった。また、計画に沿った支援、記録もできなかった。

あすなる荘に入所している通所者については、職員間で共有し、支援計画に沿った記録を行うことができた。27年度においても引き続き計画に沿って体制を整備していく。

(2) 企業(商売)として取り組む

計画性なく生産から出荷を行っていたため、26年度は、生産計画に沿った生産を行った。また、生産に対する人員、成果等の記録整備を行い、企業(商売)としての意識は向上した。27年度は、生産、販売について株式会社瑞穂の協力を得て強化を行う。

1)生産・販売・売上・在庫などのチェック体制を確立し、責任者を設ける。

ア、各作業担当者を設け、生産目標、人員、成果を週単位で報告することにした。

また、1か月の生産状況、売上についても報告する事とした。

2)衛生面や品質について意識の向上を行う。

ア、作業工程によっては、マスク、帽子、白衣を着用する場面があり、職員間で声かけし合い、意識の向上を図った。

3)経営のノウハウについて学ぶ。

ア、経営のノウハウについて学ぶことについては、企画、実施できなかった。

(3) 就労継続支援A型事業所を開設する。

生產品目の選定等に時間を要し開所には至っていない。

(4)年間活動実績

月	活動内容
4月	花見(合同54名) 家族交流会(合同18名)
6月	防火訓練(合同24名)
7月	外食(46名)
9月	野球観戦(合同11名) 感謝祭模擬店(32名)
11月	防火訓練(合同22名) 家族交流会(合同14名) 築城特別支援学校祭(3名) JA収穫祭(6名)
12月	餅つき(合同93名)
1月	初詣(31名)
3月	バスハイク九重町(32名)

※合同は、あすなる荘、ひだまり荘、就労みらいで開催

平成26年度 相談支援センターみらい

1、事業概要

事業所名	相談支援センターみらい	
サービス種類	指定特定相談支援事業 指定障害児相談支援事業 指定一般相談支援事業 市町村委託相談支援事業	
定員	なし	
人員	基準	配置
		管理者兼相談支援専門員 常勤兼務1名 相談支援専門員 常勤専従1名

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
豊前市	125	80	100	109	87	102	115	76	87	66	62	70	1079
上毛町	13	17	22	17	25	27	21	26	14	24	13	22	241
吉富町	27	25	23	20	18	13	20	18	41	20	21	34	280
委託外	11	16	10	12	21	23	29	15	24	32	26	31	250
合計	176	138	155	158	151	165	185	135	166	142	122	157	1850

3、事業実績の評価

- (1) 多様化する地域の相談内容に関して対応できるスキルを身につける。
 発達障害分野では近隣で積極的に治療にあたっている医師が講師の研修会に参加し、スキルアップと関係機関との連携強化を行った。また自立支援協議会を通じて発達障害分野の研修を企画し、地域の従事者とともに研修に参加できた。また権利擁護の分野ではリーガルサポートに所属している担当者との意見交換会を行うことができた。けれども、高次脳機能障がいやひきこもりの分野の研修は機会も少なく、日程も合わなかったため参加することはできなかった。
- (2) サービス利用計画が増加していくが、計画の質が低下しないようにサービスを提供していく。
 サービス利用計画の増加に備えて、相談支援部の職員にも作成を依頼して月に1件の作成を目指した。けれども担当者の研修等の都合で、年間を通じて4件の作成にとどまった。そのため新規ご利用者に関しては支障なく対応できたが、継続ご利用者に関しては各事業所や行政機関と連携をとり、調整することで対応できた。今後も増えていくことが予想されるため27年度は担当者を増やして対応することが必要である。
- (3) 地域自立支援協議会の充実、地域の相談支援体制の充実を図る。
 個別支援会議の件数は少ないものの、相談支援部会で検討した地域課題を幹事会、全大会で取り上げ検討することができた。県の担当者に自立支援協議会へ参加してもらい意見を求めたりすることもできた。基幹相談支援センターの設置に関して、市の課長と協議の場を設けたが、市の意見としては法的に義務がないと難しいという意見で前向きな協議を行う事ができなかった。

平成26年度 訪問看護ステーションひびき

1、事業概要

事業所名	訪問看護ステーションひびき	
サービス種類	訪問看護 介護予防訪問看護	
定員	規定はない	
人員	基準	配置
	常勤換算において、看護師が2.5人以上の配置が必要 理学療法士、作業療法士、言語療法士等は実情に応じた配置	3月末現在 管理者1名(看護師) 看護師9名 常勤専従:5名、常勤兼務:2名 非常勤専従:2名 作業療法士1名(非常勤専従)

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問件数	611	582	524	525	510	527	520	527	512	495	504	541	6378
登録者数	116	114	111	111	113	114	111	109	112	109	109	112	1341
介護登録者	2	2	2	2	2	2	2	2	4	2	2	2	26

月平均訪問件数:531.5件

月平均登録者数:111.75人

3、事業実績の評価

(1) 地域・在宅医療としての役割を果たす

在宅でのサービスの提供を行い、地域の中で、ご利用者がいかに円滑な生活を営めるようにできるか。日々の看護業務を行う中で、ご利用者の特性や生活背景を考慮し、質の高いサービス提供を行うために事業所としては何を取り組むことが重要か。という事について、業務改善やご利用者の支援に対する会議を事業所内で行ってきた。

精神障がいの方に対してはステーションとしての特性を生かしたサービスを提供することができたのではないかと、と思われる。しかし、身体疾患や高齢者の方に対しては訪問看護実践が不十分であったこともあり、十分な役割を果たすことができなかった。

様々な疾患や障害に対応できることが地域・在宅医療への貢献につながると思われる。

医療業界、看護業界は変化が大きい。そのため、最適なサービスを提供して行くためには知識や技術の向上はもとより、地域にも情報の発信ができるように取り組んでいく必要があるのではないかと、と思われる。

(2) 地域での事業所の認知、医療機関との協力体制を整える

精神障がいを抱えている方や関連施設、精神科病院からは訪問看護の依頼を受けることもあり、ある程度の認知をしていただいた。しかし、内科や外科といった医療機関においては十分

な認知はされていない面が強く、管理者としては積極的なアピールやPR活動が行うことができなかった結果、認知がはかれなかった。

医療機関との連携においては文書での報告の他、状態変動時や、今後問題が表面化する可能性が高い状況には、その都度報告を行いながら指示を仰いでいった。

現在、指示を頂いている医療機関との関係においては顔の見える関係構築を心がけた。

(3) 介護保険ご利用者の訪問看護件数を増やす

12月に2名頂いたのみで登録者、件数と増やすことができなかった。未達成。

また、頂いたご利用者の方も長期間の訪問看護に至らなかった。(入院の為)

原因としては医療機関や居宅介護事業所等に対するアピール、PR活動が不十分だったため介護保険ご利用者の紹介が得られなかった。

今後は在宅医療が中心となる傾向が強く、パンフレットの修正やご利用者、家族、医療機関等に興味を持ってもらえる働きかけをいかに行っていくかが平成27年度の課題と思われる。

(4) 医療事業部内、他の部署との連携、協力体制の強化を図る

障がい部との関係においては、施設間連携を締結し、定期的な勉強会を実施し、入所者の方に対し、健康管理意識や疾患、治療に対する理解を促すことが出来たのではないかとと思われる。医療部内においては注射の刺入といった医療行為の実践やトランスファーといった手技に対する振り返りを行うことができた。

平成27年度は計画的、継続した取り組みを行うことで現状の振り返りや連携の強化をはかり、ご利用者にとって安心、安全、安楽なサービスの提供をはかることが重要と思われる。

平成26年度 障がい者向け共同住宅ひだまり荘

1、事業概要

事業所名	障がい者向け共同住宅ひだまり荘	
サービス種類	共同住居	
定員	16名	
人員	基準	配置

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	16	16	16	16	16	16	16	16	15	16	16	15	190
新規利用者数										1			1
退所者数									1			1	2
入院者数						1	2	2	2	1	1		9
月平均利用者率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	93.7%	100%	100%	93.7%	98.9%

3、事業実績の評価

(1) 入所者を確保する。

下記内容を実施し、平均利用率98.9%の利用率となった。

1) 営業、宣伝

ア、4月10月に近郊の医療機関(大貞病院、豊前病院、大川病院、行橋記念病院、行橋厚生病院)、行政(中津市、吉富町、豊前市、築上町、行橋市)、相談支援事業所(豊前市:ハイジ、すおう、中津市:エマオ、ゴーン)挨拶回りを行った。

また、現ご利用者の外来受診に同行し、担当主治医、psw(精神保健福祉士)と関係構築に心がけた。

イ、毎月初めに近郊の医療機関に空室状況を書面にて報告を行った。

ウ、ホームページの更新はできなかった。平成27年度は新たなホームページ掲載となり、更新が容易になる。担当者を選任し2カ月に1回程度更新を行っていく予定である。

(2) 年間活動実績

月	活動内容	小グループ活動
4月	花見(合同54名) 家族交流会(合同18名)	
5月		ボーリング大会(16名) 大掃除・茶話会(30名)

6月	防火訓練(合同24名)	
7月		七夕書道展(18名)
9月	野球観戦(合同11名)	
10月		コスモス園散策(14名)
11月	防火訓練(合同22名) 家族交流会(合同14名)	
12月	クリスマス会(24名) 餅つき(合同93名)	運動G散歩(3名)
1月	初詣(14名) 調理実習(30名)	
2月		ボーリング大会(8名)
3月	直方イオン(10名)	

※合同は、あすなる荘、ひだまり荘、就労みらいで開催
 その他活動は、すべてあすなる荘と合同で開催

平成26年度 特別養護老人ホーム たいへい苑

1、事業概要

(1)主な事業内容

在宅での生活が困難になった要介護者に対して、施設ケア計画に基づいて入浴・排泄・食事等の介護や健康管理、及び日常生活の相談・援助を行うことで、残された機能を生かした生活が維持できる支援

(2)定員・・・50名

(3)職員配置等

事業所名		特別養護老人ホーム たいへい苑			
サービス種類	介護老人福祉施設				
定員	50名				
人	員	基準	配置		
		施設長	1	施設長	1
		生活相談員	1以上	生活相談員	1
		介護支援専門員	1以上	介護支援専門員	1
		介護職員＋看護職員	20以上	介護職員＋看護職員	27.5
		機能訓練指導員	1以上	機能訓練指導員	1
		栄養士	1以上	栄養士	1
		その他		その他	1

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所者数	1	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	7
退所者数	1	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	6
入院延日数	48	45	35	17	21	35	85	26	50	50	50	50	512
利用延日数	1438	1475	1444	1522	1529	1465	1460	1464	1500	1497	1365	1500	17659
稼働率(%)	95.9	95.2	96.3	98.2	98.7	97.7	94.2	97.6	96.8	96.6	97.5	96.8	96.77

3、事業実績の評価

(1) ご利用者の重篤化や個別ニーズの対応が出来るように、職員のスキルアップを図る

- 1) スキルアップに関する意識は徐々に向上しつつあり、施設内研修参加は 一人あたり年間に平均4.8回。
- 2) 施設外研修の参加は年間15件。施設での看取りが増えることに鑑み、施設外での看取り研修へ4名参加し、地域ニーズの把握と充実したケア提供にむけてスキルアップにつなげている。
- 3) 喀痰吸引等の特定研修参加者 1名。今後、特定事業所としての届け出を行う
- 4) 実習指導者講習会に参加者 1名。介護福祉士の実習受け入れが出来る体制づくりが整備出来た。

- 5) 年間計画に沿って、ケア計画の見直しを行い、予定以上のケア計画修正が出来た。しかし、計画に沿った個別計画を確認しながらのサービス提供が、まだ、習慣化出来ていない為、画一的な場面も見受けられる。
- (2) 転倒転落を前年度の半数に減少できる対策を行い、安心・安全・快適な生活環境を提供する
 - 1) 転倒転落に関して、事故報告書を前年度の半数にはできなかったが、職員の意識が向上し、全報告書の占める割合を55%から51%へ下げることができた。しかし、ルール違反での支援により、骨折に及ぶ事故が3件発生し、賠償の適応とした。また、リーダーを中心にした事故発生に関するアセスメントが十分に行えていない事もあり、ご利用者の安心・安全な生活を守る為にも、引き続き27年度の重点目標に掲げる。
 - 2) 入院者は、昨年度よりも3割弱減り、苑での生活を維持できた。看取りケアの対象者は3例で、ご家族からも感謝のお言葉を頂き、充実した看取りケアが出来ている。
 - (3) 全職員が係やチーム内の役割を通じてケアに責任を持ち、チーム目標達成が出来る。
 - 1) 全職員が係や各々役割を担っていたが、係によっては具体策が明確になってなく、継続して活動が出来ていないものもある。広報係は、時間外に残ったの作成により、広報誌発行は予定通りおこなえた。又、ご家族への郵送も行い、苑生活の様子をお知らせすることが出来ている。
 - 2) サービスケア会議は徐々に件数も増え、定着しつつある。(60例/年)
 - 3) 年間行事・イベントに関しては、ほぼ予定通り実行できた。運動会は、係の職員も趣向を凝らしご利用者を楽しませる工夫をすることが出来た。
 - (4) 入浴方法の改善を通じて、チーム内の業務の見直しを行うと共にご利用者の満足度向上を図る
 - 1) 9月に個浴槽の改修工事が完成し、マンツーマンでの入浴支援が出来ている。それに伴い、他の業務改善も行い、水分補給や食事支援などチームケアが徐々に出来だし、ご利用者との関係性の向上やリスク予防に繋がっている。
 - (5) 他職種協働体制を作り、サービスの質の向上につながるような介護部組織の基盤を創る
 - 1) 3年目職員が自立してサービス提供が出来るようになってきたが、他職種への働きかけがまだできていない現状。今後、日々のリーダーとしての采配や下級者への育成指導に努めていく。
 - 2) 介護ソフトの導入により、記録に関しての重複が少なくなってきた。記録の入力も2ヶ月程度でスムーズに行えるようになった。今後は、記録内容の充実と他職種が一元化した記録内容を基にカンファレンスや計画の修正が出来るように更に改善を図っていく。
 - 3) リーダー研修を繰り返し行い、日々の采配が少しずつ出来るようになって来ている。

平成26年度 ショートステイ たいへい苑

1、事業概要

(1)主な事業内容

在宅においてその人らしい日々が送れ、ご利用者とご家族の健やかな生活づくりのために、機能の維持回復だけでなく、介護をされているご家族の介護負担軽減などを目的とし、短期間の宿泊利用中の生活支援を行う

(2)定員・・・50名

(3)職員配置等

事業所名	ショートステイ たいへい苑		
サービス種類	短期入所生活介護		
定員	10名		
人 員	基準		配置
	施設長	1	施設長 1
	生活相談員	1以上	生活相談員 1
	介護支援専門員	1以上	介護支援専門員 1
	介護職員＋看護職員	20以上	介護職員＋看護職員 27.5
	機能訓練指導員	1以上	機能訓練指導員 1
	栄養士	1以上	栄養士 1
	特養たいへい苑と兼務		特養たいへい苑と兼務

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所者数	3	2	2	1	3	1	0	2	1	2	2	1	20
利用者数	25	23	23	22	23	23	21	25	23	18	25	22	273
利用延日数	205	221	204	173	248	237	269	248	200	156	194	228	2583
稼働率(%)	68	71	68	55.8	80	79	86.7	83	64.5	50.3	69.3	73.5	70.81

3、事業実績の評価

(1)～(5) 特別養護老人ホーム たいへい苑にの実績評価に準ずる

(6) 地域ニーズの把握に努め、ショートステイのすべての要望に対応できる受け入れ体制を構築する。

- 7月まで、ほほえみ館開所に伴うご利用者減少の影響があったが、新規のご利用者は徐々に増え、8月以降の稼働率は持ち直した。しかし、年末年始の施設内での感冒の感染防止の為、利用の差し控えをお願いすることもあり、ご利用者へ迷惑をかける結果となった。今後、感染対策を万全に行い、計画通りを受け入れ対応を行う。
- ショート利用中の生活状況については、ご家族や居宅支援事業所への情報提供を確実にし連携に努めた。
- 利用中の体調不良に関しては、早めにご家族への情報提供を行い、臨機応変な対応が出来た。

平成26年度 特別養護老人ホーム たいへい苑 ほほえみ館

1、事業概要

(1) 主な事業内容

在宅での生活が困難になった要介護者に対して、10名程度のグループを生活単位(ユニット)とし家庭的な雰囲気の中で、施設ケア計画に基づいて入浴・排泄・食事等の介護や健康管理、及び日常生活の相談・援助を行う。又、残された機能を生かし、楽しみながら生活が維持できるように支援

(2) 定員・・・50名

(3) 職員配置等

事業所名	特別養護老人ホーム たいへい苑 ほほえみ館		
サービス種類	介護老人福祉施設		
定員	30名		
人 員	基準		配置
	施設長（苑と兼務）	1	施設長（苑と兼務） 1
	生活相談員	1以上	生活相談員 1
	介護支援専門員	1以上	介護支援専門員(兼務) 1
	介護職員＋看護職員	15以上	介護職員＋看護職員 18.2
	機能訓練指導員	1以上	機能訓練指導員 1
	栄養士	1以上	栄養士（苑と兼務） 1
	その他		その他 1

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所者数	0	1	2	0	0	1	0	2	1	0	1	1	9
退所者数	1	0	2	0	0	1	1	1	1	1	0	2	10
入院延日数	46	57	94	93	68	64	26	10	15	40	24	36	573
利用延日数	854	867	794	832	862	828	882	869	909	863	794	870	10224
稼働率(%)	95	93	88.2	89.5	92.7	92	94.8	96.6	97.7	92.8	94.5	93.6	93.37

3、事業実績の評価

(1) ご利用者の重篤化や個別ニーズの対応が出来るように、職員のスキルアップを図る

- 1) 3名の職員が介護福祉士の資格取得でき、キャリアアップが出来ている。
- 2) 重篤化対応に向けて、看取りケアや感染防止の研修会への施設外研修への参加はできたが、施設内研修への参加者が少なく(一人平均2.4回/年)、まったく参加していない職員も7名おり、スキルアップに対する職員間の意識の差が出ている。

(2) 入居者の健康管理を徹底し、入院延日数を前年度の半数以下とすると共に個人の尊厳を大切にされた看取りケアの提供が出来る。

- 1) 入居時から既往歴に関する情報収集を密にし、健康管理に努めてきた。26年度の入院延日数は573日で、昨年度と比較では、月平均の入院日数が2割弱減少出来ている。
 - 2) 看取りケアの対象者は、10名中5名であり、いずれのご家族からも感謝の言葉を頂き、職員も満足できる看取りケアができた。今後は、看取りケアの振り返りチェック表に準じて、ケアの振り返りを定例化していく。
 - 3) 今年度、6月に肺結核に罹患者が発生し、同ユニット内のご利用者の健診等、法令に準じて施行した。幸い、他者への感染はなく経過し出来ているが、もう1年間の経過観察を行う。10月には、2階ユニットで、疥癬の初診対応が遅れ、集団感染(利用者14名、職員9名)が発生し、ご利用者・家族への説明を含め、毎日のシーツ交換や入浴、軟膏塗布など対応に時間を要し、利用者及び職員に身体的、精神的負担をかけた。治療費に関しても、法人に全負担をお願いし、迷惑をかけてしまった。その後、感染対策を徹底を職員指導するとともに、環境整備もしっかり行っている。
- (3) 全職員が係やユニット内の役割を通じてケアに責任を持ち、ユニット目標達成が出来る。
- 1) 全職員が係や各々役割を担っていたが、係によっては具体策が明確になってなく、継続して活動が出来ていない
ユニット目標を掲げ、各々年間の取り組みを行ったが、積極的に活動が出来たユニットとそうでないユニットがあり、ユニット差が大きくでている。
- (4) ユニット間の協力体制をスムーズに行い、ケアサービスの質の向上を図る
- 1) 退職職員が1ユニットに偏りがあった為、入浴支援や見守り体制に向けたユニット間の協力体制を行うようにしてきたが、日勤帯のリーダーの力量によって、采配が出来ない日もあった。疥癬発生時は、協力体制をしっかりと行い、早期に感染を終息することが出来た。
 - 2) ご利用者の問題・課題のアセスメントをしっかりと行い、個別ケア計画立案が出来るような他職種協働でのケアカンファレンスの定着が、まだ出来ていない。各職員の力量に応じたケアサービスを行っている為、引き続き次年度の課題とする
- (5) ユニット型特養の実習施設へ向けて体制づくりを行う
- 1) 24時間シートに関しても、目標の修正が適宜行えていないので、十分に活用できていない。記録に関しては、ケアに関する記録は大分書けるようになって来ている。記録の勉強会で、現状の課題を理解出来てきている。
 - 2) ユニット費に関しても、ユニット毎の活動の差が生じている。ユニットの特徴がもっと出せるようにユニット目標に準じて活動していく。

平成26年度 デイサービスセンター さざんか荘

1、事業概要

事業所名	デイサービスセンター さざんか荘	
サービス種類	通所介護・介護予防通所介護 (主な事業内容) 1)要支援・要介護認定者に対して、居宅サービス計画書に基づいた日常生活支援および機能訓練	
定員	32名/日	
人 員	基準	配置
	管理者1名(常勤・兼務可) 生活相談員1名以上 介護職員1名以上 利用者15人以下の場合は1名以上 15人を超える場合は、5又は端数増す毎に1名以上配置すること 看護職員1名以上 機能訓練指導員1名以上	管理者1名(常勤兼務) 生活相談員2名 (常勤専従1名、兼務1名) 介護職員8名 (常勤5名、兼務1名、非常勤2名) 看護職員(常勤1名、非常勤1名) 機能訓練指導員2名(常勤) 管理栄養士1名(常勤兼務)

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	103	87	82	84	84	81	78	79	77	73	76	78	
月利用者数	96	78	76	81	79	75	73	73	69	62	68	72	
新規登録者数	0	4	0	2	2	0	3	2	1	2	5	5	26
登録抹消者数	3	1	5	0	2	3	6	1	3	6	2	3	35
機能訓練実施者数	57	60	62	69	65	66	68	65	63	62	62	67	
機能訓練述べ件数	458	531	535	626	573	579	594	573	559	496	583	697	6804
1か月述べ利用者数	645	623	625	696	629	600	559	493	492	432	492	548	6834
1日平均利用者数	25	23	25	26.8	24.2	23.1	20.7	19.7	18.2	16.6	20.5	21	平均22
月稼働率(%)	78	72	78.1	83.3	75.6	72.2	66.8	61.6	56.9	51.8	64	65.6	

3、事業実績の評価

(1) 安心・安全・快適な介護サービスを提供し、月のご利用者数を700人以上にする

1)年間を通じて、目標の700人/月以上を達成できなかった。その理由としては、

- ①目標設定を平成25年度同様の700人と設定したが、今年度より、生きがいデイサービスほのぼのが開所し、生きがいのご利用者が80~100名程度移動した。
- ②ほぼ毎日利用していた要介護度の高いご利用者の入院や年間14人の永眠、体調不良による一時中止等によりご利用者が減少した。
- ③新規登録者数が、昨年は56名であったのに対し、今年度は26名と少なく営業努力が足りなかった。

以上のことから、特色のあるデイサービス(多様なレクやリハビリ)をアピールした営業活動や在宅での体調管理や介護指導により、入院や入所を減らす働きかけや、ケアマネとの

連携が必要である

- 2) 毎月のさざんか荘便りの発行、ご利用者作品の月間デイへの投稿などは計画的に実施できた。投稿作品が受賞したことで、ご利用者、職員間ともにモチベーションアップにつながっている。現在のさざんか荘便りは、ご利用者向けとなっているため、今後は、外部へアピールできる広報誌の発行やホームページの活用を行っていく。
- (2) その人らしさを尊重し介護度、疾患に応じた個別サービスの提供をして、ご利用者の満足度の向上を図る
 - 1) 毎日夕方のカンファレンスを実施し、個々のご利用者のケア内容の統一や身体、生活状況の情報を記録に残すことを徹底した。今後は、その内容が毎月のモニタリングや通所介護計画に反映されるよう用紙の再検討や記録の学習会を実施していく。
 - 2) 各ご利用者の情報収集が容易にでき、緊急時に救急へ素早く対応できるように日々の経過記録を個人ごとのファイルにし、看護職員にて基本情報用紙を作成した。それにより、ご利用者の急変時に焦らずに救急隊へ必要な情報が的確に伝えることができた
 - (3) 他職種との連携を密にとり一人一人の個別のニーズに合った機能訓練サービスの実施をする
 - 1) 昨年までは個別機能訓練加算(Ⅱ)のみの対応であったが、4月より加算(Ⅰ)への対応も整備し、各ご利用者にあった訓練の必要性を本人や家族、ケアマネへ説明したことで、機能訓練実施ご利用者数が4月59%→91~93%へと増加した。現在、作業療法士2名体制にてサービスにあたっている。近隣の吉富町にリハビリ専門職が専従しているデイサービスがないことから、短時間でのリハビリ目的の紹介が増え、可能な限り要望に応えられるよう対応している。
 - 2) 機能訓練加算を取得するためには、他職種共同カンファレンスが必須であるため、介護職員へ説明、理解を得ながら書類整備やカンファレンス時間の調整などを行った。介護とリハビリとセクショナリズムが生じないよう、今後も理由づけをしっかりと行いながら対等な立場で実施していく必要がある。
 - 3) 疾患別、身体状況別の集団療法として、4月に腰痛体操グループ、10月に認知症脳トレグループを開始した。腰痛体操はご利用者にも周知され、毎回積極的に参加し計画通り実施できているが、認知症グループは、職員の不足等により計画的に行えなかった。
 - (4) プロの職員として常に最良のサービス提供ができるように自己研鑽およびサービス向上に努める
 - 1) 年2回の目標面接にて各個人の目標を設定し、法人内の研修へは積極的に参加できていた。11月に全国通所ケア大会へ3名、2月に介護報酬改定に伴う研修へ4名参加し平成27年4月からの介護保険改正に伴う各職種の役割や課題を明確にできた。
 - 2) 接遇マナー向上のため、「マナーアップ標語」を作成し、毎朝の朝礼時に皆で唱和したり、気になる言動は、その都度職員間で声掛けを行うなど、サービス向上を常に意識できた。
 - 3) 事業所活動内容の報告や職員とのふれあいを目的に家族会を計画していたが、デイサービスにおける家族会について目的や企画が不十分であり実施は至らなかった。
 - (5) 地域とのつながりを大切に活動を行い地域に愛される事業所を目指す
 - 1) ご利用者が作成した雑巾等小学校や集会所などへ寄付するため、作成しているが、今年度は障がい部の掃除用の雑巾作成を優先に実施したため、まだ数が不足しており、今後も継続していく。
 - 2) 毎月2~3団体のボランティアが大正琴や舞踊など披露してくれている。8月には、ご利用者の孫によるバイオリン演奏が実現でき、子供の訪問を皆さん喜ばれていた。今後は、地域保育園や小学校とのふれあいの機会を企画していきたい。

平成26年度 生きがいデイサービス こうげテラスほのぼの

1、事業概要

事業所名	生きがいデイサービス こうげテラスほのぼの	
サービス種類	上毛町生きがいデイサービス委託事業 (主な事業内容) 1)介護保険非該当者に対して、町の委託を受け上毛町生きがいデイサービス事業の提供	
定員	20名/日	
人員	基準	配置
		生活相談員1名(常勤兼務) 介護職員2名(常勤兼務)

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	25	24	26	25	27	26	28	28	27	29	28	30	
新規登録者数	5	0	2	0	2	0	2	2	0	2	2	2	19
登録抹消者数	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	3	0	9
1か月述べ利用者数	58	97	92	89	93	101	93	87	90	80	84	101	1065
1日平均利用者数	12	11	11.5	11.1	10.3	11.2	11.6	10.8	10	10	10.5	11.2	平均10.8
月稼働率(%)	39	65	61.3	59.3	62	67	62	58	60	53.3	56	67.3	平均59%

3、事業実績の評価

- 上毛町と連携を図りながら、4月までに生きがいサービスの開設を行う
上毛町と連携を図り、週2回(月・金曜日)を営業日とし、4月14日に開設した。
デイサービスセンターさざんか荘の職員(相談員、介護職員)2名を固定し、非常勤職員を含め3~4名にてサービスを提供している。
送迎やリハビリ、レクレーションなどは、さざんか荘と連携し、協力が得られている。
- 利用目的に応じたサービスを提供し、12月まで月のご利用者数を150人にする
月のご利用者数は多くて100人程度で、目標達成には至らなかった(年間平均稼働率59%)
昼食とおやつは、全て職員とご利用者が一緒に調理することで、ご利用者は、役割意識や連帯感もて、「ここに来るのが楽しみ」と生きがいに繋がっている。
また、午後からはさざんか荘の機能訓練指導員と協力し、腰痛体操やパワーリハビリなど介護予防の充実も図っている。
反面、自立レベルではなくなっているご利用者が、「ここでないと嫌」と介護申請をしないという矛盾事例が数件生じており、現職員数では対応が難しくなっている。

平成27年度からは、介護予防、日常生活支援総合事業も開始され、委託料も減少するため、包括支援センターと連携を図り、しっかりとアセスメントし、今までのデイサービスから目的に応じてご利用者が選択できるデイサービスへの移行が必要である。
また、要支援の方が多様なサービスの一つとして利用できるよう「基準緩和Aデイサービス」の申請を検討していく。

- (3) プロの職員として常に最良のサービス提供ができるように自己研鑽サービス向上に努める
業務マニュアルの整備が不十分であったため、今後も必要なマニュアルの整備を行う
その他は、デイサービスセンターさざんか荘と同様
- (4) 地域とのつながりを大切に活動を行い地域に愛される事業所を目指す
デイサービスセンターさざんか荘と同様

平成26年度 居宅介護支援事業所 わかば

1、事業概要

事業所名	居宅介護支援事業所 わかば	
サービス種類	居宅介護支援事業	
定員		
人員	基準	配置
	介護支援専門員 1名以上	管理者兼介護支援専門員 常勤 1名 介護支援専門員 常勤 2名

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護者数	58	53	55	58	55	55	52	50	46	39	44	47
予防者数	7	8	8	7	6	5	4	5	4	5	7	11
新規者数	5	1	3	4	2	4	1	1	0	2	6	8
入院者数	6	7	6	3	7	8	6	7	6	7	3	1
一時中止者	2	1	2	2	2	0	4	3	4	6	4	2
可動率	81%	76%	79%	81%	76%	75%	70%	69%	63%	55%	64%	73%

3、事業実績の評価

- (1) 高齢者化率の上昇に伴い居宅の登録者数の増加が考えられ、できる限り在宅生活を維持できるように各関係と連携を図り個々に応じた支援を提供する。
- 1) 地域包括支援センターへの情報提供を毎月行い、情報の共有を行った。またケアマネ連絡会に参加し、ケース検討を通じてプランに関する意見を聞いたり、課題を見つけることへの取り組みを行うことができた。事業所内でのケアプランのチェックや事例検討はできなかった。
- (2) 地域ニーズに対し、地域資源を活用し、相談・支援の提供において保健・医療・福祉に関わり社会に貢献する。
- 1) 交流センターを利用し地域の方に対しての健康教室を企画、実施を行った。26年度は全6回開催し、述べ167名の参加者があった。けれど、デイケアご利用者以外の外部の参加者は延べ59名と少なく、今後地域への周知等が必要であろうと考えられる。
 - 2) 地域へのサロン活動への参加を行う。原井、上唐原、下唐原、西友枝、宇野西地区などに参加し、健康チェックや健康増進に関するプログラムを実施することが出来た。まだ、実施できていない地域もあり、各サロンの世話人の方との接触を持ち必要に応じて利用してもらう体制づくりを継続する。

- (3) 多様なご利用者のニーズへの対応に備え、専門性の高い知識や質の向上の為、スキルアップを図る。
- 1) 教育委員会の開催する研修会に積極的に参加し、意識や質の向上を行った。
 - 2) 外部研修として、スキルアップのために主任介護支援専門員や認知症研修に参加。より専門的分野の質の向上を図った。

平成26年度 ヘルパーステーション わかば

1、事業概要

事業所名	ヘルパーステーション わかば	
サービス種類	訪問介護・介護予防訪問介護・障害福祉サービス居宅介護 (主な事業内容) 1)要支援・要介護認定者に対して、居宅サービス計画に基づいた日常生活支援 2)障がい者に対して自立支援のための日常生活支援 3)非該当者に対しては、町の委託を受け生活援助員派遣事業(生きがい訪問介護)の提供	
定員	登録 40名	
人員	基準	配置
	管理者1名(常勤・兼務可) サービス提供責任者1名以上 訪問介護員2.5名以上(常勤換算)	管理者1名(常勤兼務) サービス提供責任者1名(常勤兼務) 訪問介護員7名 (常勤1名、兼務1名、非常勤5名)

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	33	35	36	36	34	35	35	34	35	36	34	33	
新規登録者数	1	4	1	0	0	1	1	0	2	2	0	1	13
登録抹消者数	1	2	0	0	2	0	1	1	1	1	2	2	13
介護利用者述べ件数	231	293	275	302	270	254	305	264	280	247	277	242	3240
生きがい利用者述べ件数	13	14	14	12	13	18	13	11	18	13	14	19	172
障害利用者述べ件数	57	61	57	48	48	35	36	40	26	24	30	33	495
1か月訪問件数	301	368	346	362	331	307	354	315	324	284	321	294	3907
1日平均訪問件数	10	11.9	11.5	11.6	10.6	10.2	11.4	10.5	10.8	9.79	11.5	9.48	平均10.7

3、事業実績の評価

(1) 1日の訪問件数を平均10件確保し、事業費収支をプラスにする

1) 毎日訪問するご利用者が数名おり、1日平均10件以上の訪問件数は維持でき、事業費収支も約250万円の黒字となり目標は達成できた。

毎日の早朝や夕方の訪問への対応や登録ヘルパーの勤務時間数の増大により、5月から職員募集をしていたが求人がなく、8月から他部署より応援体制にて乗り切った。

10月より常勤職員を1名採用したことにより、各職員の負担が軽減されている。

2) 障がいご利用者の長期入院や入所などにより、訪問件数が昨年度の約半数となっているため、高齢化する障がい者への生活支援等、障がい部門と連携を図っていく。

(2) 訪問介護計画書の見直しを行い、ご利用者個々の生活に応じた個別援助の充実及び均一な

援助の提供にて、ご利用者満足度の向上を図る

- 1)6月に訪問介護計画書と手順書、評価が連動した計画書を作成した。しかし、サービス提供責任者のヘルパー業務が多忙であり、新規ご利用者のみの使用であり、効果確認までには至らなかった。
- 2)ヘルパー間の情報交換は、携帯電話や申し送り簿にて確実に行えている。
また、それまで不定期であったヘルパー会議が、12月からは定例化さて、毎月(第4水)に全ヘルパーが参加し、個別支援の方法の確認や課題検討などが行えるようになった。

(3) 職員の目標管理を行い、個人のスキルアップを図ることで、全スタッフが常に最良のサービス提供ができる

- 1)6月5日、12日にサービス提供責任者研修への参加にて役割や課題等について再認識する良い機会となった。登録ヘルパーに対しても年2回の個人目標面接を実施した。
職員によってスキルアップに対する意識の差がみられたが、面接を行うことで研修等の情報提供ができ、興味のある施設内研修への参加はできていた。
- 2)10月より採用となった常勤職員は、介護経験が浅いため、来年度は計画的に教育研修を実施していく必要がある。

平成26年度 小規模多機能ホーム 大きなかぶ

1、事業概要

事業所名	小規模多機能ホーム 大きなかぶ	
サービス種類	介護が必要となった高齢者に対し、介護保険法令の趣旨に従い、ご利用者が地域住民との交流や地域活動への参加を図りつつご利用者の心身の状況・要望及びその置かれている環境を踏まえて、「通い」を中心として随時「訪問」や「泊り」を組み合わせサービスを提供し、ご利用者がその有する能力に応じ、可能な限り住み慣れた自宅や地域の中で生活ができるようにする在宅介護サービス。	
定員	登録定員 25名以下 1日あたり定員「通い」15名 「泊り」9名	
人 員	基準	配置
	管理者 1人(常勤・兼務可) 介護職員 常勤換算で通いサービスの利用者数が3又はその端数を増すごとに1以上(3:1) ・訪問サービス提供にあたる介護職員を1以上 ・介護職員のうち1以上は常勤職員 ・介護職員のうち1以上は看護職員(看護師、准看護師は問わず、非常勤・兼務可) ・介護支援専門員1人(常勤・兼務可)	管理者 1人(常勤兼務) 介護職員 5名(常勤専従)1人(常勤兼務) 3人(非常勤専従) 2人(非常勤兼務) ・看護職員2人(1人常勤専従、1人常勤兼務) ・介護支援専門員 1人(常勤兼務)

2、事業活動の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	13	12	14	13	13	14	14	14	16	17	16	17	
(内訳)要支援	3	2	2	2	2	2	3	3	4	3	3	3	
(内訳)要介護	10	10	12	11	11	12	11	11	12	14	13	14	
新規登録者数	1	0	2	0	0	1	0	0	2	1	1	2	9
登録抹消者数	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	6
生きがい	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	
通い	267	281	289	289	279	288	285	284	301	304	273	293	3433
泊り	242	234	229	213	205	203	215	206	211	221	197	208	2584
訪問	21	10	10	13	10	13	12	8	18	19	8	12	154

通い 1日平均:9.4人 泊り 1日平均:7.0人

3、事業実績の評価

- (1) 効率的にショートステイのベッドコントロールを行い、事業所収入をプラスにする。
 26年度宿泊サービスご利用者は10名で、そのうち7名は長期の宿泊サービス利用である。

26年度の稼働率目標は72%にしていたが、64%で、達成率は88%となった。新規登録者は、退院後に利用される方が多く、又、[生きがい]を利用していただいていた方が、介護保険申請後もスムーズな利用継続が得られたり、登録ご利用者は生きがいを含めると18名となった。登録抹消の内訳は、特養への入所1名、有料ホームへの入居1名、入院2名、看取り1名、本人の都合1名である。26年度の利用相談件数は37件で、内 利用開始となったのは9件だった。相談件数、利用開始件数は伸び悩んでいる。今年度は定期的な広報紙の発行が行えてなく、PR活動不足が原因と考えられる。家族へはH27年4月の家族会にて、H26年度の総集編を資料として配布し活動状況の報告を行った。

(2) 転倒、誤薬などの安全管理対策を行い、安心、安全、快適な介護サービスを提供する。

26年度の事故は19件、ヒヤリ・ハットは15件といずれも増加している。誤薬については三重チェックの徹底で事故は減少したが、食前薬の忘れや、床に薬が落ちているのを発見したり、薬袋に残っていた等の事故が多かった。「通い」のご利用者の持参忘れに対しては、カンファレンスを行い迎え時にチェックすることをケアプランへ入れリスク回避に努めた。

業務マニュアルに関しては、全ての見直しを行い、送迎・排泄・入浴マニュアルの改正ができた。今後も随時見直し改正を行い、事故件数の減少に努める。

事業所内の整理・清掃も、年間行動計画を作成したことで定期的に取り組むことができた。

(3) 家庭的な雰囲気の中で、在宅生活と同じようなあたり前の生活が維持できる。

毎朝のお経の先導や、食事の配膳準備、食器拭きなどそれぞれの役割が生活の中で定着している。体調の優れない時には、ご利用者同士が代わりを務めることも自然にできて家庭的な雰囲気である。事業所での看取りケアでは、未経験の職員も不安の中、自分のできる精一杯のケアで支援にあたることで、よい取り組みができた。ご家族も泊り込みで付き添われ、自宅と同じような時間を過ごすことができたのではないだろうか。看取りケアの振り返りを行い、今後、小規模多機能ならではの関わりが課題である。

(4) 常に最良のサービスが提供できるように自己研鑽およびサービス向上に努める

職員の平均年齢が高いためか、施設内研修への参加が一人平均2.7回のみと低く、職員の意識・意欲の低さが課題である。接遇マナーでの苦情件数はゼロだが、言葉遣いに関しては、注意すべき点が多々見られる。

介護福祉士の実技講習へ参加し、資格取得にむけて取り組んでいる。

「日本通所ケア学会」(広島)で、記録・評価についての取り組みをまとめ事例発表することができ、他県(石川県、)からの問い合わせもあった。6月に行った家族アンケートでは、「介護計画や契約書の説明をわかりやすいようにしてくれる」「サービスに同意を得ている」「職員は生き生きと仕事をしてる」の項目については、90%の高評価を頂き、総合的に「今のサービスに満足している」項目では80%の家族が満足しているとの評価をいただいている。

(5) 地域とのつながりを大切にし、地域に開かれた事業所運営に努める。

地域の代表、駐在さん、役場の職員等から成る運営推進会議を二か月毎に行い、事業所の活動報告を行っている。地区の道路愛護へ参加(職員のみ)、地区盆踊りでは、ご利用者3名と参加し、水ヨーヨーの提供で子供たちとのふれあいの時間を持つことができた。開所から8年経ち、ご利用者友人の訪問も増えている。6月よりボランティアによる音楽療法が行われている。昔ながらの手遊び歌など、ご利用者の皆さんに好評である。

平成26年度 こうげクリニック

1、事業概要

事業所名	こうげクリニック	
サービス種類	医療事業部(無床診療所)	
定員		
人員	基準	配置
	医師 1名	常勤(非常勤) 医師 1名 看護師 1名 准看護師 1名(1名) 医療事務 1名(2名) リハビリ助手 (1名) (病児病後児保育士兼務2名)

2、事業活動の実績

1) 外来診療

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数	340	322	331	324	326	321	338	323	348	359	334	341	4007
受診延べ数	926	960	1056	1095	952	965	1088	919	977	1002	827	968	11735
病児保育延べ数	0	0	0	0	0	0	1	0	4	3	0	0	8
訪問診療・往診	21	15	12	13	10	14	16	12	14	27	14	10	178

2) 特別養護老人ホームたいへい苑・ほほえみ館嘱託診療

3) 上毛町他委託事業(病児病後児保育、保育所・小学校嘱託医、サンフラワー嘱託医)

4) 特定健診事業(23件)

5) 予防接種件数(子供:95件、大人77件)

3、事業実績の評価

(1) 第1次総合診療の役割を果たす

1) 疾病の早期発見、疑い患者の専門医療機関への紹介をおこない、一時診療の役割を果たした。

また、急性期治療終了後の通院継続治療を以下の通りおこなった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介数	8	12	8	5	6	8	8	9	5	7	10	6	92
退院後継続	2	3	8	4	5	2	5	2	4	7	6	3	51
(特養)	1	4	3	2	0	2	5	3	3	2	5	3	33

(2) 外来患者数および受診延べ数の増加を図る

年間の新外来患者数は501人であるが、ほとんどが軽症急性疾患で1~2回の受診で治癒し定期受診対象ではなかった。また、対象者の大半が後期高齢者のため、死亡・施設入所

等で通院を終了するかたが多く、受診数の増加には至らなかった。

(3) 在宅終末期診療体制の確立を図る

書類整備・職員の技術習得をおこなっていたが、在宅での看取り契約希望は1名のみで且つ入院されたことにより、実際に在宅での終末期医療支援を実施することはなかった。

(4) 関連施設の入所者の健康管理・予防医療の充実を図る

対象施設の入所者の定期検診とその後の経過管理を一覧化し、一括管理した。

＊本年度入院:たいへい苑計29件、延べ日数470日、一人平均16, 2日
ほほえみ館計21件、延べ日数585日、一人平均27, 8日